

体罰反対！

「体罰」も「愛のムチ」も認めるな！
人間教育に暴力は絶対に必要ない。

高校野球の名門大阪PL学園高校での上級生による暴力事件が問題となり、期限付き対外試合の禁止などの処罰が加えられた。昔ほどではないのかも知れないが、スポーツの世界に体罰のイメージは依然ぬぐえない。心理学や精神医学が発達した今日、体罰が有効な教育方法でないことはもちろん、逆に人間の心に悪影響を及ぼすことはわかっている。「体罰」と言えばひとつの教育方法として聞こえるが、筆者は「暴力のひとつ」としか考えられない。強豪のPL学園であろうがなかろうが、暴力事件は厳しく罰して当然。ただ、今回このような処分が決定したことで、その他の暴力行為が、今後は人目のつかないところで行われるようになるのではないかと心配だ。

体罰は過去の遺物。人間教育に暴力はいっさい必要なし。思うに、「体罰」や「愛のムチ」といった呼び方が、そもそも暴力を容認しているのではないだろうか？ 罰を与えるなら司法に任せよ。愛があるならムチ打つな。

いまだきよの歴史

一番新しい日本のページ

沖縄婦女暴行事件

沖縄駐留米軍は、第二次大戦の戦争犯罪をまだ続けるつもりなのか？



いや、冗談じゃなくて。

「チイ協定」……。
およびごでない？

米軍人による沖縄県女性暴行事件は当事者の米軍曹の身柄引き渡してようやく進展をみせた。この事件を受けて、在沖縄米兵の夜間外出やビーチへの出入り禁止を呼びかける自治体も現れた。米兵は沖縄にいったい何をしに来ているのか？ 何のための基地なのか？ 軍人にも飲酒や娯楽などの息抜きは確かに必要だが、自分を律することができない者には軍人の資格はない。ましてや基本的人権を守れない者に、世界の平和を守れるのか？ 米軍基地はあくまで日本が善意で基地のために土地を提供しているのだ。なのに、なぜ駐留先の人間と対等に付き合いできないのか？ 今、日本は韓国人・朝鮮人の強制連行や、従軍慰安婦など、過去に犯した非人道的行為の償いに取り組んでいる。恥づかしながら、補償問題に積極的に取り組んでいるとはまだまだ言えないが、日本を占領下に置いた第二次世界大戦当時と同じ事件を、一部の米兵がいまだに起こしているということを、米国はもっと恥づべきだ。

バイオレンスOKなのは
このクラブだけ。

しかも架空……



牛丼価格競争

飲食店を価格競争に追い立てるのは
消費者のせい？ 店のせい？

吉野家が7月から牛丼（並）を西日本で400円から280円に値下げした。一方、こここのところ京都で力を伸ばしている松屋は、以前からみそ汁付きで290円。これから一層、低価格競争が激化しそうだ。

それにしても、価格の大幅引き下げを切り札とする外食産業が目立つ。数年前、某ハンバーガーチェーンがつくって15分経ったら処分するというシステムをやめ、オーダーを受けてからつくる方法に切り替えることで大幅値下げを実現したのも有名。でも、ちょっと待て。外食産業は「食」を介して消費者に楽しみや健康を提供する産業。誰でもわかる「値段の安さ」だけで勝負しないで欲しい。値段だけでなく、味やサービス、楽しさ、健康への配慮といった「中身」で店を選ぶ客も少なからず存在するのだから。長く愛される店を目指すなら、価格設定と同じくらい大胆に「中身」を追求して欲しい。「中身」に無頓着な消費者が悪いのか、価格で勝負する店が悪いのか。たとえ安さで店が繁盛しても、肝心の「中身」が置き忘れられているようでは、まさに仏つくって魂入れずだ。



文◎大塚 祐希

1968年大阪府八尾市生まれ。昔ながらの京都の民家を仕事場とするライター集団「大塚祐希事務所」の暫定CEO。「スポーツが好きだが自分ではやらない」「車が好きだが免許を持っていない」「酒が好きだが外で飲むと店を壊してしまう」という数々のジレンマと戦いつつ、今日も愛機G4を駆る。



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi>